

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ザ・パークハウス鎌倉	階数	地上5階、地下1階
建設地	神奈川県鎌倉市小町2丁目351番	構造	RC造
用途地域	商業地域、第一種中高層住居専用地域、防火地域、準防火地域	平均居住人員	74人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年10月 予定	評価の実施日	2021年11月1日
敷地面積	1,139 m <sup>2</sup>	作成者	東急建設株式会社一級建築士事務所
建築面積	799 m <sup>2</sup>	確認日	2021年11月15日
延床面積	3,767 m <sup>2</sup>	確認者	東急建設株式会社一級建築士事務所



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.6**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値: 100% (138 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

② 建築物の取組み: 92% (126 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

③ 上記+②以外のオンサイト手法: 92% (126 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

④ 上記+オフサイト手法: 92% (126 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.6**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.6

音環境	3.1
温熱環境	3.4
光・視環境	4.1
空気質環境	3.4

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

機能性	3.5
耐用性・信頼性	3.2
対応性・更新性	3.2

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.9

生物環境	3.0
まちなみ・景観	5.0
地域性・アメニティ	3.5

**LR のスコア = 3.3**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

建物外皮の熱負荷	4.0
自然エネルギー	3.0
設備システム効率化効率的運用	3.4
	3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

水資源保護	3.4
非再生材料の使用削減	3.4
汚染物質回避	3.7

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

地球温暖化への配慮	3.3
地域環境への配慮	3.3
周辺環境への配慮	3.2

3 設計上の配慮事項		その他
<b>総合</b> 光視環境、自然換気性能、部材の再利用可能性向上への取組、交通負荷抑制を中心に配慮された計画であり、それ以外の評価においても標準以上の配慮がされた計画である。		特になし。
<b>Q1 室内環境</b> 光・視環境および空気質環境において配慮された計画である。	<b>Q2 サービス性能</b> 維持管理、躯体材料の耐用年数、及び機械・配管支持方法、階高のゆとりにおいて配慮された計画である。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> まちなみ・景観において配慮された計画である。
<b>LR1 エネルギー</b> 設備システムの高効率化において配慮された計画である。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 節水、部材の再利用可能性向上への取組において配慮された計画である。	<b>LR3 敷地外環境</b> 地球温暖化、交通負荷抑制、廃棄物処理負荷抑制において配慮された計画である。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される